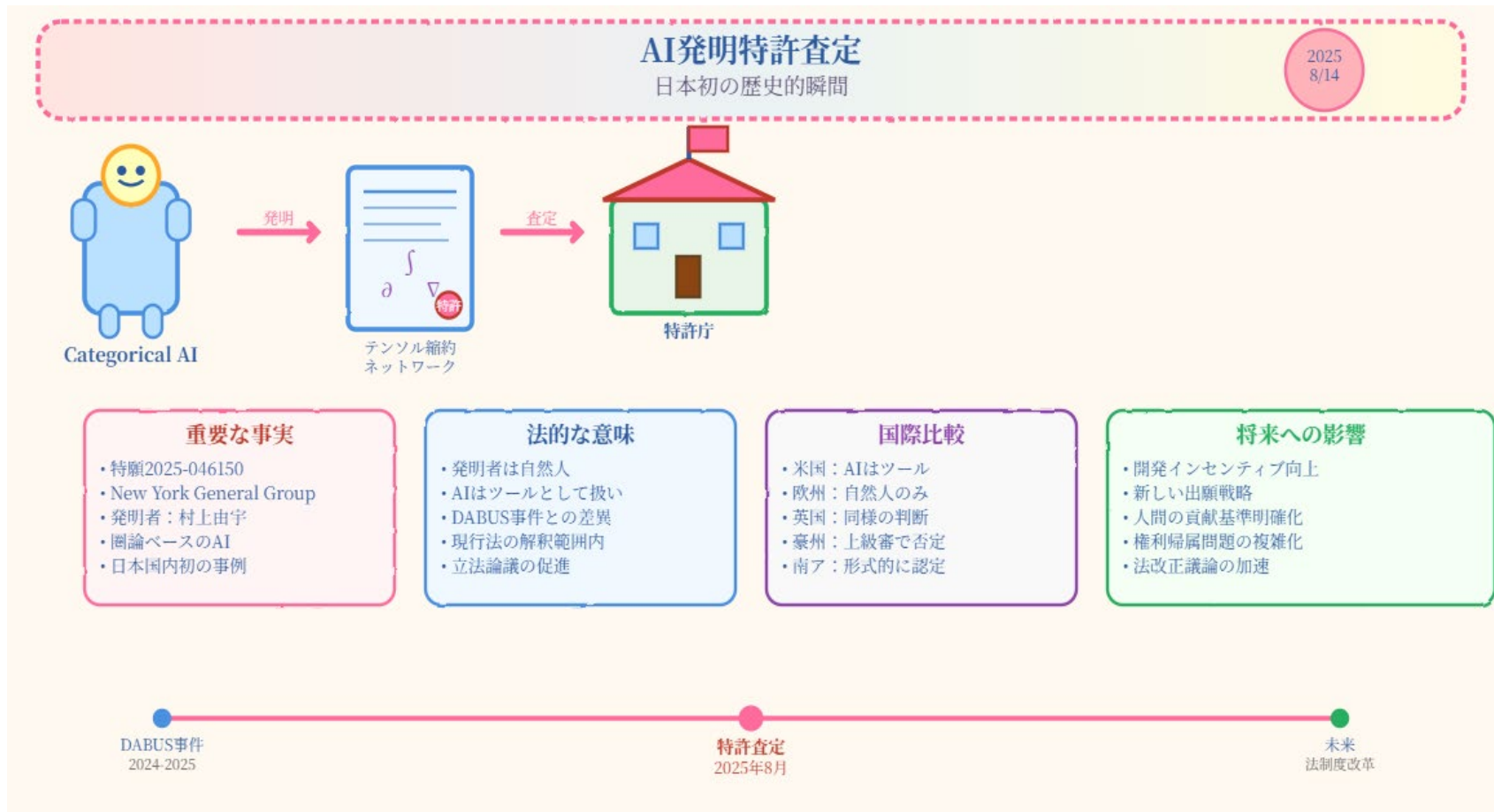


日本国内初 人工知能が発明した人工知能で特許査定

Felo AI



概要

2025年8月14日、米国企業 New York General Group は、自社開発の人工知能「Categorical AI」が発明した AI 技術について、日本の特許庁から特許査定を受けたと発表した [27 50](#)。これは、日本国内で「AI が発明した AI」が特許として認められた初の事例とされる [27 32](#)。本件特許（特願 2025-046150）は、「高次元微分演算子を計算するための確率的テンソル縮約ネットワーク」に関するもので、出願上の発明者は AI 開発者の村上由宇氏が記載されている [27 50](#)。この決定は、日本の現行特許法が発明者を「自然人」に限定し、AI の法人格を認めていないという司法判断（DABUS 事件判決）と一見矛盾するよう見えるが、本件は AI を「発明者」として出願したのではなく、AI を「発明のツール」として用い、その成果を人間（開発者）の発明として出願するスキームが認められた点で画期的である [1 3 27](#)。この事例

は、AI が生成した発明の法的保護に関する世界的な議論に一石を投じるものであり、今後の技術開発、産業競争力、そして法制度のあり方に大きな影響を与える可能性がある [9 133](#)。本レポートでは、この歴史的な特許査定の背景、法的・技術的詳細、国際比較、そして将来的な展望について多角的に分析する。

詳細レポート

1. 日本初の「AI が発明した AI」特許査定の経緯

2025 年 8 月 14 日、米国の New York General Group, Inc. は、同社が開発した人工知能「Categorical AI」が自律的に発明した新たな AI 技術について、日本国特許庁から特許査定を受けたと発表した [27 43 50](#)。このニュースは、AI が創造した知的財産権の帰属という、現代の法制度が直面する根源的な問いに具体的な一例を示したことで、国内外で大きな注目を集めている [9 32](#)。

New York General Group

特許の基本情報

- 特許出願番号: 特願 2025-046150 [27 28](#)
- 発明の名称: 高次元微分演算子を計算するための確率的テンソル縮約ネットワーク [50 73](#)
- 出願人: New York General Group, Inc. [50](#)
- 発明者: 村上 由宇（同社代表、Categorical AI 開発者）[27 50](#)
- 発表日: 2025 年 8 月 14 日 [50](#)

この特許査定の核心は、AI が実質的な発明行為を行ったにもかかわらず、出願書類上の「発明者」として AI 開発者である人間を記載し、それが特許庁に認められた点にある [27 50](#)。プレスリリースによれば、村上氏は「Categorical AI 自体の発明及び Categorical AI に入力する条件・学習データ・パラメータの創意工夫による設定という点で実質的に貢献した」とされており、この「人間の貢献」が発明者認定の根拠となった [50](#)。

2. 法的背景：日本の特許法における「発明者」の定義

日本の特許制度は、長らく「発明者＝自然人」を前提として構築されてきた [1 15 25](#)。

現行法の解釈

- **知的財産基本法:** 第 2 条 1 項で「知的財産」を「人間の創造的活動により生み出されるもの」と定義しており、発明もその例示とされている [13](#)。
- **特許法:** 第 29 条 1 項は「発明をした者」が特許を受けることができると規定し、この「者」は権利能力を有する自然人を指すと解釈されている [127](#)。また、第 36 条 1 項 2 号は出願時に発明者の「氏名」を記載することを求めている、これも自然人を前提とした規定である [13](#)。

この解釈は、AI「DABUS」が自律的に行った発明の特許性を巡る一連の訴訟（DABUS 事件）で、司法の判断として明確に示された [18](#)。東京地方裁判所（2024 年 5 月 16 日）および知的財産高等裁判所（2025 年 1 月 30 日）は、いずれも「特許法上の発明者は自然人に限られる」として、DABUS を発明者とした出願を認めない判断を下した [138](#)。裁判所は、AI 発明の保護の必要性については理解を示しつつも、それは現行法の解釈の範囲を超える「立法論」とであると指摘している [34](#)。



今回の「Categorical AI」の事例は、この司法判断を踏まえた上で、AI を「発明者」とせずに人間（開発者）を発明者とする事で、現行法の枠組みの中で AI 生成発明の保護を可能にする道筋を示した点で、極めて重要である [27](#) [50](#) [139](#)。

3. 関与した技術の深掘り

発明者 AI「Categorical AI」

発明を行ったとされる「Categorical AI」は、New York General Group が独自に開発した、数学の「圏論（Category

Theory)」を基盤とする人工知能である [27 72 81](#)。

- **技術的特徴:** 従来の深層学習モデル（例：GPT シリーズ）が統計的手法に基づき、既存データのパターンを学習・推論するのに対し、**Categorical AI** はデータや知識をより抽象的・高次の構造として捉える [27 50 78](#)。これにより、既存の知識から新たな知識を創造し、さらにその知識から次の知識を生み出すという「知識生成の連鎖」が可能となり、真に新規性のある発明や発見が期待されるとされている [50 72](#)。
- **開発者:** 村上由宇氏は、汎用人工知能（AGI）の実現において圏論が最適解であると考え、**Categorical AI** の開発を進めている [45 47](#)。

発明された技術「確率的テンソル縮約ネットワーク」

Categorical AI によって発明された技術は、「高次元微分演算子を計算するための確率的テンソル縮約ネットワーク」である [50 73](#)。

- **目的と応用:** これは、物理学、計算科学、機械学習などの分野で現れる複雑な多次元演算を、効率的かつ高速・高精度に処理するための新しい計算フレームワークである [50 76 79](#)。テンソルネットワークは、多体量子系のシミュレーションなどで用いられる数学的手法であり、この発明は計算効率を飛躍的に向上させる可能性を秘めている [82 85](#)。

4. 国際的な動向との比較：DABUS 事件を巡る各国の判断

AI の発明者適格性を巡る議論は世界的なものであり、その中心にあるのがスティーブン・セーラー博士が開発した AI 「DABUS」による発明の特許出願である [3 101](#)。各国での判断は分かれているが、主要国では否定的な見解が多数を占めている [109](#)。

国・地域	司法・行政判断	根拠・理由
日本	認めない	発明者は自然人に限られる（特許法、知的財産基本法）。立法による解決が必要 1 3 8 。
米国	認めない	米国特許法上の「発明者（inventor）」は個人（individual）を指す。AI はツールであり、人間による

国・地域	司法・行政判断	根拠・理由
		「重要な貢献」があればその人間が発明者となり得る 100 104 108 。
英国	認めない	英国特許法は発明者を自然人（natural person）と想定している。最高裁が最終判断 99 103 115 。
欧州特許庁(EPO)	認めない	欧州特許条約（EPC）は発明者を自然人と規定している 97 105 117 。
オーストラリア	地裁では認めるも、上級審で覆る	当初、連邦裁判所（一審）は発明者の定義に「人間」との限定はないとして認めたが、最終的に上級審で否定された 98 110 。
南アフリカ	認める	方式審査のみで実体審査がないため、形式的に登録された。法的な判断が確立したわけではない 98 102 。

このように、主要な法域では現行法上、AIを発明者と認めることに慎重な姿勢が貫かれている [96](#) [147](#)。米国のUSPTOが示した「AIはツールであり、人間による重要な貢献があればよい」というガイダンスは、今回の日本の特許査定を考え方と軌を一にするものであり、今後の国際的なスタンダードになる可能性を示唆している [100](#) [124](#)。

5. 多角的な影響と今後の展望

今回の特許査定は、単一の事例に留まらず、日本の知的財産戦略全体に大きな影響を及ぼす可能性がある。

産業界と技術革新へのインパクト

- 開発インセンティブの向上: AIを用いて生成された発明が特許で保護される道筋が示されたことで、企業はAIへの

投資を加速させ、研究開発の効率化と高度化が進むと期待される [133 135](#)。

- **新たな出願戦略:** 「AI をツールとして活用し、その操作や設定に創意工夫を行った人間を発明者とする」という出願戦略が一般化する可能性がある [139](#)。
- **AI 関連発明の増加:** AI 技術の適用範囲が画像処理などから多様な分野へ拡大している中、この傾向はさらに加速すると予測される [6](#)。

法制度と「発明」概念への挑戦

- **「人間の貢献」の基準:** 今後、「どの程度の関与があれば発明者として認められるのか」という基準の明確化が重要な課題となる [134](#)。AI の自律性が高まるにつれ、人間の貢献は課題設定や結果の評価のみとなり、その創造的寄与を問うことが難しくなる可能性がある。
- **権利の帰属問題:** AI 開発者、AI ユーザー、データ提供者など、発明に関与する複数の主体間で、誰に権利が帰属するのかという問題がより複雑化する [18 145](#)。
- **立法論の加速:** 今回の事例は現行法の解釈による一時的な解決策であり、AI が人間を介さず自律的に発明を行う将来を見据えた、根本的な法改正の議論が不可避となる [4 52 143](#)。特許庁の産業構造審議会では、すでに AI 発明に関する検討が始まっており、AI 開発者を共同発明者と認める方向性や、AI 自体に何らかの法的地位を与える可能性も議論されている [4 70 146](#)。

要約

2025 年 8 月に発表された、AI「Categorical AI」が発明した技術に対する日本の特許査定は、AI と知的財産権の関係における歴史的な転換点である [27 32](#)。この事例は、現行の特許法が発明者を「自然人」に限定するという司法判断の枠内で、AI を「発明のツール」、その開発者を「発明者」と位置づけることにより、AI 生成発明の法的保護を可能にするという実践的な解決策を提示した [50 139](#)。

この決定は、DABUS 事件を巡り多くの国が AI の発明者性を否定する中で、特に米国の「AI はツールであり、人間の重要な貢献があれば特許は成立する」という方針に沿うものであり、今後の国際的な潮流となる可能性がある [100 109](#)。これにより、日本国内では AI を活用した研究開発が加速し、新たな特許出願戦略が生まれると予測される [6 133](#)。しかし、中長期的には、発明における「人間の貢献」の定義、権利の帰属、そして AI の自律性がさらに向上した場合の対応など、解決すべき課題は山積している [134 145](#)。今回の特許査定は、AI 時代の知的財産制度のあり方を巡る本格的な立法論議の幕開けを告げるものと言えるだろう [4 9](#)。

1. [東京地方裁判所、AI システムは日本の特許法上発明者になる ...](#)
2. [1.3 「発明者」とは～特許の実体的要件](#)
3. [AI の発明者性について判示した東京地裁判決](#)
4. [A I 発明についての議論の進展（産業構造審議会知的財産分科 ...](#)
5. [判例からみた先使用权](#)
6. [AI 関連発明の出願状況調査 | 経済産業省 特許庁](#)
7. [発明者とその権利とは - BUSINESS LAWYERS](#)
8. [「AI は発明者になれず」 知財高裁、特許出願を認めず](#)
9. [AI が創出する発明の特許化に向けた議論が本格化——知財制度 ...](#)
10. [「AI」が「発明者」であるかについて判示した裁判例>> | 知財 ...](#)
11. [AI がした発明は特許にならない？最新の判例を解説 - note](#)
12. [コラム>特許出願の願書に記載する「発明者」についての注意点](#)
13. [AI 発明は特許法上保護されるか？令和6年5月16日東京地裁 ...](#)
14. [日本でもA I を発明者とした出願認められず](#)
15. [発明者の表示 - 日本弁理士会 中国会](#)
16. [発明者、出願人、特許権者は何が違う？](#)
17. [<AI Update> AI 発明に対する特許付与について判示した知財 ...](#)
18. [AI 発明についての政府の検討ー発明に使った AI の開発者も共同 ...](#)
19. [AI を発明者とする特許出願却下処分取消請求を棄却した東京 ...](#)
20. [発明者にはどのような権利があるのでしょうか。](#)
21. [人工知能ダバス（DABUS）に関する令和7年1月30日知財高裁 ...](#)
22. [【東京地判令和6年5月16日】AI を発明者として記載した特許 ...](#)
23. [発明者等の表示について | 経済産業省 特許庁](#)
24. [特許庁、AI 活用の発明で法整備を検討 発明者の定義など](#)
25. [1.発明者の法的地位・職務発明制度 | 弁理士法人 三枝国際特許 ...](#)
26. [AI 関連発明の発明者 - J-Stage](#)
27. [【日本国内初】人工知能が発明した人工知能で特許査定 | ニコニコニュース](#)
28. [【日本国内初】人工知能が発明した人工知能で特許査定](#)
29. [【日本国内初】人工知能が発明した人工知能で特許査定](#)
30. [【日本国内初】人工知能が発明した人工知能で特許査定](#)
31. [特許公報を検索してみましょう - 特許庁](#)
32. [【日本初】AI が発明した AI が特許査定！Categorical AI の衝撃](#)

33. [New York General Group, Inc.のプレスリリース — 財経新聞](#)
34. [特許情報プラットフォーム | J-PlatPat 【JPP】](#)
35. [【日本国内初】人工知能が発明した人工知能で特許査定 \[New ...](#)
36. [New York General Group, Inc.のプレスリリース — PressWalker](#)
37. [ホーム | 経済産業省 特許庁](#)
38. [Categorical AI、AI が創造した AI 技術で日本初の特許査定獲得](#)
39. [【日本国内初】人工知能が発明した人工知能で特許査定 | 産経 ...](#)
40. [Categorical AI が発明、国内初の AI 発明特許査定](#)
41. [【日本国内初】人工知能が発明した人工知能で特許査定](#)
42. [特許検索ポータルサイト | 経済産業省 特許庁](#)
43. [New York General Group, Inc.のプレスリリース — PR TIMES](#)
44. [特許行政年次報告書 2025 年版 | 経済産業省 特許庁](#)
45. [Yu Murakami | NYGG — New York General Group](#)
46. [特許・実用新案番号照会／OPD — J-PlatPat — INPIT](#)
47. [汎用人工知能（AGI）の研究開発に関する共同研究・業務提携 ...](#)
48. [特許行政年次報告書 2025 年版をとりまとめました](#)
49. [意匠公報を検索してみましょう — 特許庁](#)
50. [【日本国内初】人工知能が発明した人工知能で特許査定 | New York General Group, Inc.のプレスリリース](#)
51. [【東京地判令和 6 年 5 月 16 日】AI を発明者として記載した特許 ...](#)
52. [A I 発明についての議論の進展（産業構造審議会知的財産分科 ...](#)
53. [発明者とその権利とは — BUSINESS LAWYERS](#)
54. [AI の発明者性について判示した東京地裁判決](#)
55. [東京地方裁判所、AI システムは日本の特許法上発明者になる ...](#)
56. [発明者、出願人、特許権者は何が違う？](#)
57. [AI がした発明は特許にならない？最新の判例を解説 — note](#)
58. [AI 発明、特許認めず 東京地裁「発明者は人間に限定」](#)
59. [1.3 「発明者」とは～特許の実体的要件](#)
60. [人工知能ダバス（DABUS）に関する令和 7 年 1 月 30 日知財高裁 ...](#)
61. [AI が創出する発明の特許化に向けた議論が本格化——知財制度 ...](#)
62. [発明者にはどのような権利があるのでしょうか。](#)
63. [A I が自律的にした発明の保護適格性 — 知的財産のすすめ](#)
64. [ニュース「東京地裁が AI を発明者と認めず、特許要件について」](#)

65. [特許を受ける権利 ～発明者って何をした人なんですか？](#)
66. [AI は発明者になれないとした裁判例と今後特許訴訟で起こる ...](#)
67. [IMY 知財ニュース 2024 年 6 月 A I の発明者適格性をめぐる東京 ...](#)
68. [発明者が有する権利とは？発明者の検索方法についても解説](#)
69. [AI を発明者とする特許出願却下処分取消請求を棄却した東京 ...](#)
70. [2025 年 2 月総合コラム：A I 開発者も共同発明者として認める ...](#)
71. [コラム>特許出願の願書に記載する「発明者」についての注意点](#)
72. [Categorical AI（圏論 AI） | NYGG – New York General Group](#)
73. [【日本国内初】人工知能が発明した人工知能で特許査定](#)
74. [Categorical Data Encoding Techniques | AI Skunks – Medium](#)
75. [圏論に基づく AI「Categorical AI」による発明で 4 件の特許出願](#)
76. [【日本初】AI が発明した AI が特許査定！Categorical AI の衝撃](#)
77. [使用分類資料 | Machine Learning](#)
78. [【日本初】AI が発明した AI が特許査定！Categorical AI の衝撃](#)
79. [Categorical AI が発明、国内初の AI 発明特許査定](#)
80. [但機器学習演算法無法直接處理文字時。 効果 ... – Threads](#)
81. [【日本国内初】人工知能が発明した人工知能で特許査定](#)
82. [テンソルネットワーク の基礎と応用 – サイエンス社](#)
83. [Best AI Tools for Analyzing Categorical data – Insight7](#)
84. [圏論 – Wikipedia](#)
85. [テンソルネットワークとその応用 – Deus Ex Machina](#)
86. [Effective Categorical Variable Encoding for Machine Learning](#)
87. [5. 概念モデリングに関する圏論的考察 - 議論のきっかけとして](#)
88. [8 Data Types That Major AI Models Feed on to Function](#)
89. [New York General Group, Inc.のプレスリリース – PR TIMES](#)
90. [A Complete Guide to Categorical Data in ML – upGrad](#)
91. [【論文レビュー】 Position: Categorical Deep Learning is an ...](#)
92. [Handling Machine Learning Categorical Data with Python ...](#)
93. [圏論：構造と関係性の数学 | インディ・パ](#)
94. [What Are the Different Types of AI Models? | Mendix](#)
95. [Artificial intelligence \(AI\) algorithms: a complete overview](#)
96. [【米国】 【特許】 AI の発明者適格性について | ブログ | Our Eyes](#)

97. [欧州特許庁、「AI は発明者になれない」と判断！](#)
98. [全球首例，澳洲法院裁定人工智慧系統 DABUS 為專利發明人](#)
99. [A I は特許の「発明者」になれず、英最高裁が判決 — ロイター](#)
100. [米国特許商標庁（USPTO） AI の発明者適格に関する指針を公表](#)
101. [AI は発明者と認めない～ 東京地裁 — 河野特許事務所](#)
102. [澳大利亞聯邦法院作出人工智慧可為專利發明人的認定](#)
103. [AI は特許の発明者とは認められないとイギリス最高裁が結論](#)
104. [【速報】【米国】【特許】AI 利用発明の発明者認定ガイダンス ...](#)
105. [欧州における AI 関連発明について](#)
106. [日本對於 AI 人工智慧能否作為專利發明人之判斷—DABUS 案在 ...](#)
107. [【英国判例メモ/特許】AI マシンは発明者たり得るか？また](#)
108. [生成型 AI による発明の保護（米国） — 河野特許事務所](#)
109. [AI は発明者となり得るのか？割れる各国の判断！ — iPTimes.](#)
110. [澳大利亞法院裁定：人工智慧系統 DABUS 被认定为专利发明人！](#)
111. [英国裁判所、AI の「発明」には特許を取得できないとの判決](#)
112. [【友学問】アメリカの AI 補助発明の発明者認定及び示唆 — 三友](#)
113. [AI の発明者性について判示した東京地裁判決](#)
114. [EPO 駁回 DABUS 專利申請案：AI 機器不具備發明人地位！](#)
115. [英国における AI と特許取得に関する最新情報 — HLK — Japan](#)
116. [人工知能が発明者になれなくても米国特許法では人工知能の ...](#)
117. [人工知能（AI）を発明者とする特許出願を却下](#)
118. [德國聯邦專利法院認定人工智慧不具專利發明人資格但特別點出 ...](#)
119. [AI を発明者と認めず 人間だけに特許権 英・最高裁が判断](#)
120. [米国における AI 関連発明について](#)
121. [AI を発明者とする特許出願却下処分取消請求を棄却した東京 ...](#)
122. [人工知能ダバス（DABUS）に関する令和 7 年 1 月 30 日知財高裁 ...](#)
123. [AI 発明の発明者と知財訴訟における AI の利用について](#)
124. [A I 活用の発明に特許付与も、人が「重要な貢献」すれば＝米 ...](#)
125. [DABUS：AI 智慧發明在臺灣 — 冠群國際專利商標聯合事務所](#)
126. [発明の過程で AI を利用した場合の発明者性に関する米国特許 ...](#)
127. [Supreme Court Dodges AI Inventor Question with Denial of ...](#)
128. [EPO 駁回 DABUS 專利申請案：AI 機器不具备發明人地位！](#)

- 129. [<AI Update> AI 発明に対する特許付与について判示した知財 ...](#)
- 130. [知的財産法における AI の影響 – CHIP LAW GROUP](#)
- 131. [東京地方裁判所、AI システムは日本の特許法上発明者になる ...](#)
- 132. [AI による発明](#)
- 133. [AI 開発者にも特許権、発明に利用なら対価 政府検討](#)
- 134. [AI が特許や知財実務に及ぼす影響について解説](#)
- 135. [「AI 活用でも人の発明」 政府検討会で特許庁が見解](#)
- 136. [中国 | A I 関連発明出願のための指針（試験版）が公表される](#)
- 137. [A I 発明についての議論の進展（産業構造審議会知的財産分科 ...](#)
- 138. [「人工知能（AI）を発明者として認めるべきか ... – ジェトロ](#)
- 139. [第 8 章：倫理・法的側面から見た AI 活用上の注意点](#)
- 140. [AI がした発明は特許にならない？最新の判例を解説 – note](#)
- 141. [「AI を特許の発明者として認めるべきだ」と専門家が主張](#)
- 142. [【英国判例メモ/特許】AI マシンは発明者たり得るか？また](#)
- 143. [【東京地判令和 6 年 5 月 16 日】AI を発明者として記載した特許 ...](#)
- 144. [A I は特許の「発明者」になれず、英最高裁が判決 – ロイター](#)
- 145. [AI 発明についての政府の検討ー発明に使った AI の開発者も共同 ...](#)
- 146. [特許庁、AI「発明者」認めず 法改正も視野、開発者に権利検討](#)
- 147. [【米国】 【特許】 AI の発明者適格性について | ブログ | Our Eyes](#)